

暖地で普及が期待される複合病害虫抵抗性品種 緑茶用早生品種「なんめい」

日本の茶栽培において、クワシロカイガラムシ、輪斑病、炭疽病は重要病害です。特に、茶栽培面積の約77%を占める主要緑茶品種「やぶきた」はこれらの病害虫に弱く、農薬による防除が必須とされてきました。しかし、近年、消費者の食に対する安全・信頼性の確保の意識の高まりや、生産サイドにおけるコスト削減に対する要望の高まりから、農薬使用量の削減が求められています。そこで、野菜茶業研究所ではクワシロカイガラムシと輪斑病に強度抵抗性、炭疽病に中度抵抗性を示す緑茶用早生品種「なんめい」を育成しましたので、その特性の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「なんめい」は、クワシロカイガラムシと輪斑病に抵抗性で樹勢が強い「さやまかおり」を母親、製茶品質に優れる早生系統「枕崎13号」を父親として、平成4年に交配した後代の中から選抜された品種です。
2. 「さやまかおり」由来のクワシロカイガラムシ抵抗性遺伝子を受け継いでいる品種として、DNAマーカーを用いて選抜されました。なお、「なんめい」は、果樹や茶などの木本作物では、DNAマーカー選抜技術を用いて育成された国内初の品種です。
3. クワシロカイガラムシ抵抗性が「強」、輪斑病抵抗性が「強」であり、炭疽病抵抗性が「中」です。
4. 早生であり、一番茶における摘採期は、中生の「やぶきた」よりも6~7日早く、早生品種「さえみどり」と同時期です。
5. 収量は、「やぶきた」、「さえみどり」より優れ、新芽の葉色は濃緑です。一番茶の製茶品質は「やぶきた」より優れ、「さえみどり」と同等です。



「なんめい」の一番茶園



「なんめい」の一番茶新芽

☆ 活用面での留意点

1. 早生品種であり、赤枯れ抵抗性や裂傷型凍害抵抗性といった耐寒性がやや劣るため、九州南部など暖地での栽培が適しています。
2. 農薬使用量の削減が期待され、有機栽培や無農薬栽培など輸出向け栽培にも適した品種です。
3. 詳しいことは、野菜茶業研究所 茶業研究領域 茶育種研究グループ (TEL:0993-76-2127) へ、お問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)